

倒伏に強く大粒良質で蛋白質含量が高い 大豆新品種「里のほほえみ」

研究のねらい

山形県では豆腐用の高蛋白品種「エンレイ」が作付けされているが、ダイズモザイクウイルス抵抗性が不十分であり、また中粒種の「スズユタカ」は蛋白質含量が低めで、かつ小粒化が問題となっている。そこで、東北南部向きに大粒でダイズモザイクウイルスに強く、さらに耐倒伏性等の機械化適性を向上させた豆腐用の高蛋白品種を育成する。

成果の内容

- ①倒伏に強く、最下着莢位置が高いため、コンバイン収穫に適する(図1、図2)。
- ②ダイズモザイクウイルスと紫斑病に強い。
- ③子実は大粒良質で、蛋白質含量が「エンレイ」並に高く豆腐に適する(図3、図4)。また、煮豆・味噌の加工適性も良好である。

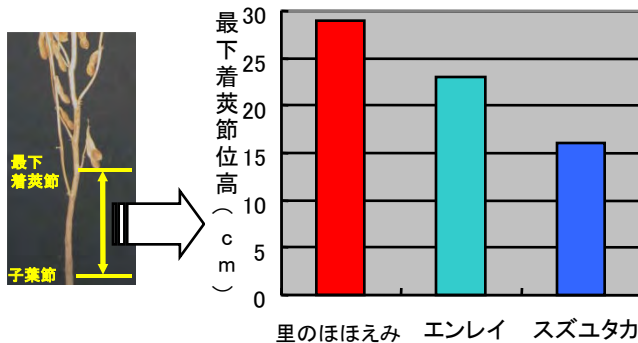


図1 里のほほえみの最下着莢位置



図2 里のほほえみの耐倒伏性
(手前:エンレイ、後方:里のほほえみ)



図3 里のほほえみの子実

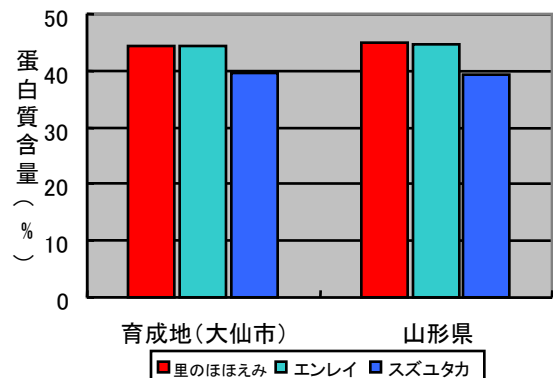


図4 里のほほえみの子実中の蛋白質含量

成果の利活用

- ①栽培適地は東北南部等である。山形県で奨励(認定)品種に採用され、同県で主力の「エンレイ」の一部および「スズユタカ」に置換えて普及する予定である。普及見込み面積は1000haである。